

◆関東羈旅 (カントウキリョ) No.37
長瀬の紅葉(埼玉県秩父郡長瀬町)

長瀬の岩畳

朝夕の冷え込みが厳しくなってきた向寒のみぎり、紅葉が見頃となっている長瀬(ながとろ)町を訪ねました。JR 熊谷駅で秩父鉄道・三峰口行きに乗換え「長瀬駅」で降車、駅前の観光案内所で散策コースを教えてもらい、岩だたみ通り商店街を抜けると荒川上流の長瀬溪谷が見渡せます。河原に降りると、対岸にある高さ 100 メートルほどの絶壁は秩父赤壁と呼ばれ、色鮮やかな紅葉が岩畳と溪谷を飾りつけていました。この長瀬溪谷は 1924(大正 13)年に国指定の名勝・天然記念物に指定されており、長瀬の景観を代表する岩畳は、上から見ると畳を敷き詰めたかのように見えます。岩畳の道を辿りながら散策すると、長瀬ライン下りの舟が見え、川沿いの「哲学の道」を抜けると、月の石もみじ公園に到着しました。

川柳・岩畳にて

- ・寒風に 楓舞い散る 岩畳
- ・長瀬の 紅葉愛でて 節季過ぐ
- ・赤壁に 粋な舟唄 こだまして
- ・紅葉を 闇夜に照らす 月の石

日本地質学発祥の地

見事な紅葉の木々に囲まれた月の石もみじ公園には、高浜虚子の句碑と宮沢賢治の碑があり、宮沢賢治は 1916(大正 5)年に長瀬を訪れ、歌を詠んだそうです。また「日本地質学発祥の地」の石碑が建立されており、1877(明治 10)年、東京大学に地質学科が創立すると、ドイツの地質学者であるナウマン博士が初代教授として明治政府に招かれ、この長瀬を調査したそうです。この長瀬の美しい溪谷は、地下 20~30 キロメートルの高圧化された結晶片岩で、隆起した後、長い年月をかけて川の流れに削られたそうです。以来、地質学研究材料の宝庫として、多くの研究者や学生が訪ねるようになったそうです。地球内部の動きを調査し、活躍している「しんかい 6500」や地球深部探査船「ちきゅう」などの原点がここにあることを感じました。公園は、夕方 5 時から紅葉がライトアップされるとのことで、昼の紅葉と夜の紅葉を見比べてみようと思い、宝登山神社にお参りしてから、もう一度訪ねることにしました。神社までの途中には長瀬町郷土資料館があり、敷地内の旧新井家住宅を見学することができました。260 年前に建てられた養蚕農家で、1971(昭和 46)年に国指定重要文化財となったそうです。屋根が板葺で、仕切りのない風呂場や、土間に接した囲炉裏など、まるで江戸時代を散策している雰囲気味わうことができました。

- ・日本では 明治生まれの 地質学
- ・みずからを 夕陽に染める モミジかな
- ・蚕より シルクを紡ぐ 繭の家

宝登山神社と夜の紅葉

長瀬駅より続く宝登山並木参道の突き当たりに、宝登山神社がありました。「宝の山」とも言われる宝登山(ほどさん)は、ダイダラボッチという巨人がこの山を担いできたという伝説のほか、神社の起源にまつわる色々な言い伝えが残されており、江戸時代末期に再建された社殿には、神様を守る5匹の竜が見事に彫刻されています。宝登山の頂付近に奥宮も建立されていると聞き、宝登山ロープウェイ「山麓駅」から山頂に向かいました。チケットは往復で購入、5分ほどで「山頂駅」に到着すると冷たい風が吹いており、山頂駅からは長瀬の町並みが一望できます。長瀬を創り上げた自然・大地を目の前にすると、悠久の時の流れを感じられるような気がします。奥宮とナデシコの花で有名な不動寺を訪ね歩いたあと、ライトアップされた月の石もみじ公園で、初めての夜の紅葉狩りを堪能し、寒い時期の長瀬の散策に満足感を覚えました。

- ・舞い降りた 5匹の竜に 見守られ
- ・遅咲きの 冬の撫子 寂しそう
- ・冬の夜に ロマン스語る 森の木々

「海員だより」